

田川

たがわ・むつみ

むつ美

さん

長女・羽咲(うさ)さん(写真右)、
長男・緑心(りょく)さん(左)。
/ 2月22日(土)に泉沢小で行わ
れたライブの終了後に撮影。



プロフィール

■田川むつ美(たがわむつみ)さん/文京在住/平成23年から作詞家・歌手《ハナノタネ むつ美》としての活動を始め、ライブイベントのほか、講演や児童館での音楽遊びなどを行っている。自ら企画運営する《笑顔にひらく花コンサート》は、今年で6回目を迎えた。

3月4日に開催された生涯学習フォーラム「ちとせ、ひと・まち・学びトピア」に出演した《ハナノタネ むつ美》こと、田川むつ美さん。

おにぎりに込められた母の愛を歌った《おにぎりの魔法》、生まれ育った千歳の魅力を題材にした《セカイイチチトセ》など、豊かな感性で歌詞を綴った曲が、世代を問わず共感を呼んでいます。現在、2児の母として子育てをしながら、作詞家・歌手としての活動を精力的に行う田川さんにお話を聞きました。

●活動を始めたきっかけは？

「高校のころ、部活動でマーチングバンドのトランペットを担当していたので、7年前に母校の定期演奏会に出演しました。その日はちょうど、娘の5歳の誕生日で、参加者総勢1000人に、娘と2人で《花の種》と手紙を手渡し

したのです。誕生日は普通、プレゼントをもらう口ですが、私は娘に《与えることの喜び》をプレゼントしたくて。定期演奏会には、顧問の先生の友人で、山口県在住の《マウンテンマウスまあしい》というミュージシャンが参加していました。彼は、私たちが花の種をプレゼントしている姿に感動して、私が書いた手紙の言葉に曲をつけてくれたのです。

それから、彼に勧められるまま、どんどん歌詞を書きました。いつの間にか、歌も歌わされるようになって(笑)。最初は抵抗がありましたが、もともと音楽が好きだったことや、お客さんからの温かい言葉に励まされて、歌手としての活動に喜びや生きがいを感じるようになりました。」

●活動について、ご家族の反応は？

「あるとき、小6の娘が《お母さん

笑顔を届けるママシンガー・ハナノタネ むつ美
「たった1人でも喜んでくれる人がいれば、それが正解」



の好きなところは、頑張り屋さんなところ《だと言ってくれました。正直、私は家事が苦手(笑)、子どもたちに対して頑張っているお母さんではないと思っていたので驚きました。でも娘は、《コンサートのことですごく頑張ってるよ》って。小3の息子も、《歌っているお母さんが好き》と言ってくれます。

私が全力で楽しんで、好きなことを続けている姿を、子どもたちはしっかりと見てくれているのです。夫も、私が《笑顔でいてくれることがうれしいから》と、活動をいつも応援してくれて、本当に感謝しています。」

●活動の中で大切にしていることと今後の目標は？

「児童館での音楽遊びなどでは、お母さんに《タメ》を使わないことをお願いしています。子どもたちは、立ち

上がったたり、走り回ったり(笑)、とにかく自由にしてOK。日ごろ子育てを頑張っているお母さんに、ライブの間は、ゆったりとした気持ちで過ごしてほしいからです。私は、《お母さんの笑顔が家族の笑顔をつくる》と信じているので、自分も笑顔でいたいし、見に来てくれたお母さんにも笑顔の大切さを伝えたいと思っています。

でも、私は、お客さん全員を感動させようと意気込むことはありません。たった1人でも、私の歌を聞いて喜んでくれる人がいれば、それが正解だからです。今後、まずは、自分が思いきり楽しんで活動を続けていきたい。そんな私の姿を見て、何か感じてくださる方がいれば最高です。」

お日さまのような明るい笑顔が印象的な田川さん。周りをくまなく照らすパワーの持ち主です。